

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット 3階)

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年4月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者に対し尊敬の意を持ち、受け入れる事」が介護支援の根本と考えており、介護スタッフにおいては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」といった、認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「笑顔で心穏やかに。時には思いを打ち明け一緒に涙できる環境づくり」を目指し、地域住民との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努めております。また、26年度より始動いたします「鍵預かり事業」に賛同し、地域の一員として、地域の高齢者の方々の方に力になるべく努めております。散歩しながら地域の方に「こんにちは」と声をかけていただき、「また明日」と手を振り挨拶ができる。そんな地域に根差したグループホームが私たちのホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の法人は、介護保険制度が発足して間もない平成15年に設立し、寝屋川市と門真市に認知症対応型共同生活介護施設・小規模多機能型居宅介護施設・その他高齢者介護関連事業を運用している。当事業所は、それらの施設の内の一つで平成15年4月に設立した。  
基本理念に「いきいきと元気に楽しく」とあるように、介護スタッフは一律に元気で明るい。各フロア毎に「相談しやすい環境作り」のようなスローガンを掲げているのも特色の一つと言える。地域との交流も活発で本町西・香南園自治会や老人会、ボランティア団体が運営推進会議や行事等に協力してくれている。その協力体制には、地域に「介護何でも相談所」を開設して応えている。医療面では、看護師が24時間オンコール体制が整っているのは、非常に心強い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と実践の心得を、ホームの玄関と事務所に掲げており、出勤時に確認し、仕事を行う様に、心掛けており、フロアにも心得・理念を掲げ、確認をする様に努めています。	設立当初の職員が全員で考えた理念を、事務所や各フロア寮母室内や入り口に掲げ、出勤時等に確認し共有に努めている。理念は思いを網羅してあるため非常にながい。別に標語のように一目で判るのもあればより良い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の招待を受け参加したり、子供会が訪問して下さったり、合同で消防訓練を行ったりしています。また、散歩時等には挨拶を行ない、顔見知りの関係になっています。	事業所の建物が地域自治会の境界に接しているため、両方の自治会から行事参加の勧誘を受け、花見大会、お餅つき、夏祭り等に参加している。事業所は社協の提案で「介護、何でも相談室」を開設し、双方向で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での行事への参加の際、運営推進会議の際に、認知症についてのお話や、説明をさせて頂き、理解して頂ける様努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、入居者様・ご家族・地域の方々からの意見を参考に、より良いケアを実践し、向上出来る様に取り組んでいます。	利用者及び家族、包括支援センター、自治会、老人会、地域ボランティア、事業所職員等のメンバーで概ね隔月に開催されている。そこでは防災に関することやケアに関すること等、提案が出されサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急措置や生活保護の入居者の方もおられ、鍵預かりにも取り組んでおり、市町村の担当の方と密に連絡を取り、協力関係を築ける様に、取り組んでいます。	市の高齢介護室や保護課の窓口には折に触れ訪問、連携を持ち情報交換を行っている。市の依頼を受け、独居高齢者家庭の「鍵」預かりにも取り組み、地域に貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、勉強会を実施する等理解に努め、身体拘束をしないケアの実践に努めています。入居者様の安全を守る為、EVと窓の施錠は行っています。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。しかし、各階をむすぶエレベータは、安全のためロックされている。閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行ったり、フロア会議の際にも定期的に確認し、話し合いを行なっています。スタッフ間でも、言葉使いや介助に対して、注意し合い、防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部・外部の研修で権利擁護の理解に努め、必要性のある利用者様には地域包括センターや社会福祉協議会とも連携をとりながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書・看取り契約書等は、理解・納得して頂けるまで、わかりやすく丁寧に説明を行う様に、努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族が、意見や要望を言いやすい環境作りに取り組み、頂いた意見を職員間で共有する様に努めています。また、運営推進会議の時等に、外部者へ表し、反映出来る様に努めています。	運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等には来訪時に、意見や要望を聞き出すようにしている。玄関口に意見箱も設置し、外出についての要望等、出た意見を運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	様々な意見や提案等を、職員全員が話しやすい環境になる様に心掛けており、会議の際などにも、意見を聞く機会を設け、反映出来る様に努めています。	月に一回、フロア会議やリーダー会議を行い、シフトや接遇、行事や外出に関する事など、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。年に二回は個人面談の機会も作り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持って働ける様な、環境作りに努め、定期的に館長や主任に報告を行なう様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを把握し、出来るまで丁寧に指導を行なう様にしています。また、毎月勉強会を実施したり、外部研修に参加したりと、スキルの向上にも取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などに参加し、同業者の方々との交流を行なう事で、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の困っている事や、不安、要望等に耳を傾け、安心して過ごして頂ける様な、関係づくりに取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の困っている事や、不安、要望に耳を傾け、話しやすい環境を築き、安心して、入居者様を預けて頂ける様な、関係づくりに取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を見極め、可能な範囲で対応しています。また、要望に応じて、その都度対応する様に、取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知度や、身体の状態を考慮し、それぞれに合ったお手伝い(洗濯物たたみ、食器拭き、テーブル拭き)等をして頂く事で、共に生活している事を実感して頂ける様に、取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には、日々の様子の報告や説明を行なっています。また、入居者様と御家族の絆を大切に、共に入居者様を支えて頂ける様な関係を築ける様に、努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がこれまで大切にしてきた、馴染みの人や場所に関して、可能な範囲で関係が途切れない様に、支援に努めています。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。馴染みの理容師の訪問を受けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しない様に、職員が関係を取り持ち、入居者様同士で関わりを持ち、支え合えるような支援になる様に、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご家族様にも、お会いした際等、挨拶やお話をさせて頂き、相談・ご要望に応じて、しっかりと支援を行なう様に、したいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活習慣の把握に努め、可能な範囲で希望を受け入れる様に努力しています。どうしても困難な場合は、ご本人に説明を行ない、代替案を提供したり、納得して頂ける様に、検討・実施に取り組んでいます。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で常に聞き出し、思いに出来る限り応えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や御家族様から情報収集を行ない、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状態に応じ、日課やレクリエーションを実施して頂いたり、体調を考慮して、過ごして頂く様に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、フロア会議とカンファレンスを実施し、より良く暮らす為の課題や、ケアのあり方について話し合いを行ない、ご本人・ご家族様の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成する様に努めています。	長期計画を1ヶ年、短期計画を6ヶ月としているが、利用者本人や家族との日頃の関わりの中から意見・要望を聞き出し、モニタリングとカンファレンスを繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録に残し、職員間で情報を共有しながら、会議時やその都度話し合いを行ない、より良いケアを実践し、介護計画の見直しに活かせる様に、取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階に整骨院、2階にジムが併設されており、現在は、整骨院を利用されている方はおられませんが、希望があれば利用して頂けます。ジムでは、火曜日と木曜日にリハビリ・スポーツレクを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加させて頂いたり、近くのコンビニやスーパーに買い物に行ったり、近隣の公園等に散歩に行く機会を作り、楽しんで生活して頂ける様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の病院から、月に2回の集団往診と個人往診があり、歯科は、毎週月曜日と土曜日に往診があります。本人様や御家族の希望を尊重し、適切な医療を提供出来る様に努め、特変時はすぐにDrに連絡し対応をして頂いています。	受診は本人や家族等との話し合いの上、法人の協力医療機関をかかりつけ医としているが、内科以外の受診も家族の協力を得ながら支援するようにしている。看護師とは、24時間オンコール体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、日々の状態の報告、相談をこまめにし、指示のもと対応を行なう事で、適切な看護や受診が行なえる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、安心して治療が出来る様に、しっかりと情報提供を行ない、退院時には、サマリーや看護情報を頂く様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行ない、必要な段階になった際、気持ちの変化があった際に、意向を踏まえ、御家族様・主治医・看護師・職員で話し合いを行ない、全体で方針を共有し、支援する様に努めています。	重度化した場合の終末期ケアの在り方について、事業所としての指針を定め、対応する最大の支援方法を入居時に、本人や家族等と話し合い共有している。重度化した場合に、再度話し合い確認することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、定期的に勉強会を行ない、会議の際に、初期対応の確認を行なう様にしています。また、看護師に指導頂いたり、マニュアルを確認する様に、指導・実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的実施しており、全職員が避難誘導について、認識出来る様、マニュアルをしっかりと頭に入れておき、実践出来る様に努めています。また、地域との協力体制を築く為、合同での消防訓練も実施しています。	災害時における避難訓練や消防訓練を、利用者と共に年2回消防署指導のもと行っている。災害に備えた備蓄備品も万全である。しかし、夜間想定避難訓練の実施が見られない。	夜間の避難訓練で、安全な場所まで誘導した後の見守りを地域の方をお願いするなどして、地域との関係体制が整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意し、入居者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる事のない様に、尊敬の意を持って、言葉かけや対応を行う様取り組んでいます。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも各フロア寮母室の書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、無理に何かをして頂くのではなく、入居者様の意思・希望のもと行動して頂き、自己決定して頂ける様な、働きかけや対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調を考慮し、スタッフの都合を優先するのではなく、それぞれにあったペースを大切に、可能な範囲で、希望に添った支援を行なえる様に、努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットの方に来て頂き、カットして頂いています。また、外出時や行事の際には、おしゃれ着を着て頂いたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後にテーブルを拭いて頂いたり、食器を拭くのを手伝って頂いたりしています。また、行事の際は、重箱を使用する等して、いつもと違う雰囲気を感じ、楽しみなものになる様に努めています。	食材業者の食材を元にして、担当職員が4名いて調理している。利用者と職員が同じテーブルで楽しく語らいながら食事をする家庭的な風景が見られた。朝食は食材の調達から調理までを、共に考えながら共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の把握をしっかりと行なう様にしています。また、それぞれの状態や、体調・習慣に応じた支援に取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週月曜日・土曜日に歯科往診があり、希望されている方に、口腔ケアやチェックを実施して頂いています。また、毎食後、それぞれの状態に応じた、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、定期的にトイレ誘導を実施し、個々にあったパターンや習慣を把握し、それぞれにあった間隔や、その日の状態を考慮し、声掛けや誘導を実施しています。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は3時間に一度巡回して排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、便秘傾向の方には、ヨーグルトや食物繊維の多い野菜を摂って頂いたり、水分を勧めたりと、個々に応じた予防と対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施しており、体調に合わせて調整し、シャワー浴や清拭・足浴を実施しています。また、ゆっくりと気持ちよく入浴して頂ける様に、個々に添った支援に取り組んでいます。	入浴は週2回を基本としているが、曜日も時間も決めず、いつでも入浴可能で、利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。入浴剤やゆず湯ミカン湯など、季節の湯にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時は、一人ひとりの習慣に応じて、無理に寝て頂くのではなく、眠くなるまでフロアで過ごして頂いたりしています。また、体調の観察をしっかりと行い、体調不良時は、早めに臥床して頂く等の対応を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容や容量について、処方箋を確認する様に、指導しています。また、服薬ミスが無い様注意しながら、服薬介助を行ない、症状の効果や変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんによる歌や書道等のレクを定期的に行い、楽しんで頂ける様に努めています。また、普段も一緒におやつ作りを行ったり、工作をしたり、楽しみと役割を持って頂ける様に、取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期に、公園や神社に散歩に出かけお花見をしたり、スーパーやコンビニに買い物に行ったりしています。また、定期的に御家族と散歩に出られる方もおられます。	利用者のその日の希望や体力に応じて、事業所周辺を散歩したり、八坂神社や近隣の公園へ出掛けたりしている。時には、外出に出掛けたり枚方パークや山田池へ出掛けることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っています。本人様の要望や必要なものがあれば家族様に相談し、物品を購入したりもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話して頂く様にしています。また、手紙のやり取りの支援等にも取り組んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、行事の写真や、入居者様と一緒に作った季節の作品を、飾っています。また、快適に過ごして頂ける様に、家具の位置を調整し、くつろげるスペースを作れる様に取り組んでいます。	明るい台所と繋がった食堂は、食事作りの音や匂いに満ち生活感が漂っている。壁には利用者と職員の共同作業で作った季節の飾り付けが施され、居心地よく過ごせる工夫が見られる。施設の前庭には季節の野菜が植えられ利用者と共に手入れをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごして頂ける様に、ソファを設置しています。特に席は決めておらず、好きな場所で、気の合った方と過ごして頂ける様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を持参されたり、使い慣れた物を居室に置き、自分の部屋である事を認識して頂ける様にし、居心地良く過ごして頂ける様な工夫に努めています。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。書道の展示や仏壇等を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の扉には、ご自身の居室が認識できる様な表示を行ったり、トイレや浴室も認識して頂ける様に表示し、安全で自立した生活を送って頂ける様に、工夫する様に努めています。		